

TAJIKISTAN × AOMORI CITY

ホストタウン交流 2019-2020



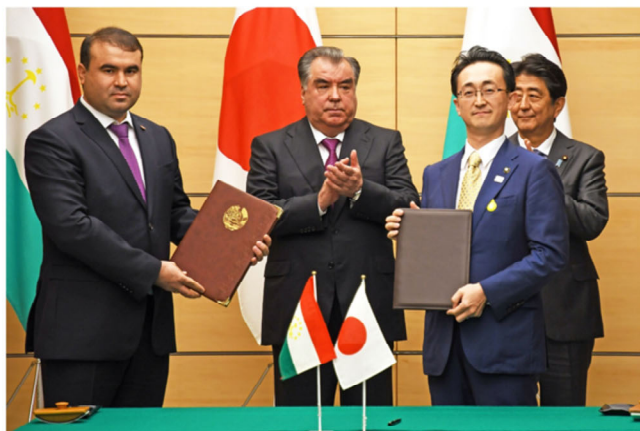
青森市

オリンピック・パラリンピック推進室

スタート

Start

01



青森市で盛んに生産されている「りんご」の原産国が中央アジアであることが縁で交流がスタート。写真は2018年10月5日にエモマリ・ラフモン大統領及び安倍内閣総理大臣の立ち会いのもと行われた事前合宿に関する覚書交換。

青森市とタジキスタン共和国は東京2020年大会をきっかけに交流がスタートしました。青森市で盛んに生産されている「りんご」の原産国が中央アジアといわれており、りんごが結んだホストタウンとなっています。写真は2018年10月5日にタジキスタン大統領が来日した際に総理官邸で行われた事前合宿に関する覚書の交換です。

青森市での取組

Actions
in
AOMORI CITY

02



柔道選手団強化合宿への地元選手の参加



地域の祭（浅虫温泉ねぶた祭）への参加



高校生によるロシア語観光ガイド



在京タジク人による料理教室

今年度の青森市の取組です。

2019年8月12日から24日の間、タジキスタン柔道選手団7名が青森市で強化合宿を行いました。

期間中は地元社会人・学生との柔道を通じた交流、地域の祭への参加、高校生がロシア語で案内する市内観光などが行われ、青森市のスポーツ・文化どちらも体験していただきました。

また、2019年12月7日には市内の国際交流団体が企画し、在京タジク人を青森市にお招きした料理教室が開催されました。

参加者は初体験となる中央アジアの料理に興味津々な様子でした。

強化合宿の実施や、合宿を通して繋がりのできたタジク人の協力で、地域住民とタジク人の交流機会を数多くつくることができました。

タジキスタンでの取組



Actions
in
TAJIKISTAN

03



日本伝統食「おむすび」紹介



青森ねぶた祭紹介



大学生による手紙交換

タジキスタン共和国を訪問し、日本の伝統食「おむすび」紹介、青森ねぶた祭紹介、大学生による手紙交換の3つの取組を行いました。

おむすび紹介では株式会社 八芳園様に制作いただいた両地の共通食材「りんご」を用いたレシピ、青森市の特産品「ホタテ」を用いたレシピで現地の学生とおむすび作りを体験しました。

青森ねぶた祭紹介では実際の祭で活躍されているねぶた師 北村春一氏による「ねぶた祭の概要説明」「ねぶたの技法を用いた照明制作ワークショップ」また、本市職員による「ハネト、囃子体験」を行いました。

大学生による手紙交換では「相手に紹介したいこと」をテーマに、興味があること、場所、食べ物などについて手紙交換を行いました。

青森市での
波及効果

Ripple Effect
in AOMORI CITY

04

1. タジキスタンについての認知度の向上

報道機関をはじめ、本市の広報誌、ホームページでの取組発信で、タジキスタンについての認知度を高めることができた。

2. 2020年東京大会へ向けての機運醸成

ホストタウンとして地域のおもてなしや、イベント等に参加することで、2020東京大会に関わることができる。

今回の交流には多くの関係者にご協力いただき地域住民の機運醸成を図ることができた。



各種取組を報道いただきました



HPIによる取組紹介



広報誌による特集記事

本市での波及効果としてはタジキスタンの認知度の向上。また住民の2020年東京大会へ向けての機運醸成を図ることができました。
社会人、学生など多くの方がタジク人と交流を行うことができたほか、新聞、テレビなどのメディアに数多く取り上げていただけました。

タジキスタンでの 波及効果

Ripple Effect in TAJIKISTAN

05

青森市及び日本文化への理解深まる

日本の火祭り「青森ねぶた祭」、日本の伝統食「おむすび」、大学生との手紙交換などを、直に体験することで青森市及び日本の文化について理解をより深めることができたのではないのでしょうか。



現地学生によるねぶたの「ハネト」「囃子」のステージ披露

タジキスタン訪問の文化紹介は現地で日本語を学ぶ大学生が対象でした。元々日本に興味を持っていた学生の皆さんには今回の取組を通して「直に」日本文化に触れる一歩踏み込んだ体験となったと思います。

目標達成

Achievement

06

事業実施における目標

- 1.現地でのネットワーク構築
- 2.今後の交流課題の把握

取組結果

- 1.大学、タジキスタン政府機関、現地日本組織のバックアップ体制が確認できた。⇒今後多様な交流が可能
- 2.今後の交流課題やニーズなど直接伺うことができた。

当初の目的は概ね達成

今回の基本調査事業を活用したタジキスタン訪問で目標とした「現地でのネットワークの構築」「今後の交流課題の把握」の二つは概ね達成できました。

交流の継続・発展

For The Future

07

レガシー創造への寄与

- ・青森市での柔道選手団強化合宿での交流や、広報を通じた情報発信によるタジキスタンへの市民理解促進
- ・タジキスタンの交流ニーズの把握、現地ネットワークの確認

市民交流をサポートする体制づくりの構築



今年度の取組を通して青森市ではタジキスタンの認知度向上・理解促進、タジキスタンでは現地のネットワーク築くことができました。今後はネットワークを活用した青森市、タジキスタンの若者を主役とした交流などこれから発展・継続する市民交流をサポートしていきたいと考えています。

タジキスタン柔道選手団強化合宿

Intensive Training Camp of Tajikistan Judo Team



タジキスタン柔道選手団7名が2019年8月12日から24日の間、青森市で強化合宿を行いました。期間中は全日本学生柔道連盟の皆さんをはじめとした県内柔道関係者によるスポーツ交流ほか、地域の祭への参加や高校生によるロシア語での観光ガイドなどの市民交流が行われました。



青森北高等学校柔道部による合宿会場設営



青森市国際交流ボランティア協会のお出迎え



地域の祭、浅虫温泉ねぶた祭に参加



青森市柔道少年団による歓迎会



タジキスタン流柔道教室



青森南高等学校の生徒によるロシア語ガイド

2019.8.12—2019.1.24

タジキスタン柔道選手団強化合宿の様子

タジキスタン文化交流
Cultural Exchanges in Tajikistan

日本伝統食～おむすび紹介～
Japanese Traditional Food ~OMUSUBI~



おむすび作り初体験



タジキスタン出張おむすび!!



ロシア語で作成したおむすび紹介とレシピ



おむすび「オイシイ!」と初めての味に大満足



うまくできましたか?

ホストタウン関連イベントの実行委員会メンバーである株式会社 八芳園（東京都港区）様にタジキスタンと青森市共通の特産品であるリンゴを用いた「りんごとチキンのおむすび」と青森市の海の特産品小タテを用いた「よもぎと小タテのおむすび」のオリジナルレシピを考案いただき、タジキスタン現地でおむすびの試食会を開催し、参加者の皆さんと握りました。

2019.11.22

タジキスタン文化交流「日本伝統食～おむすび紹介～」の様子

タジキスタン文化交流
Cultural Exchanges in Tajikistan

青森ねぶた祭の紹介・ねぶた師 ワークショップ
Workshop of The Aomori Nebuta Festival by The Nebuta Master



青森ねぶた祭の概要説明



ハネト体験



手振り囃（がね）で囃子体験



ねぶた師北村氏によるワークショップ



環瀬軒尊と木花咲耶姫 北村春一制作



ねぶた制作の技法を用いた照明

実際にねぶたの山車を制作するねぶた師の北村春一さんを講師に迎え、青森ねぶた祭の紹介とワークショップ（ねぶた制作の技法を用いた照明制作）をタジキスタン共和国の大学生（タジキスタン国立言語大学、ロシア・タジク国立言語大学）に行いました。実際にねぶたを制作する際の工程・技法を用いたワークショップに苦勞している様子でしたが、参加者の皆さんは熱心に取り組んでいました。

2019.11.21・22

タジキスタン文化交流「青森ねぶた祭の紹介・ねぶた師 ワークショップ」の様子

タジキスタン文化交流
Cultural Exchanges in Tajikistan

大学生による手紙交換
Letter Exchange Program between University Students



日本郵便の「ホストタウン相手国・地域へお手紙を送ろう！」事業を活用し、相手国の学生へ紹介したい「場所」「趣味」「文化」「食」などをテーマに青森市内の大学生（青森中央学院大学、青森公立大学）とタジキスタンの大学生（タジキスタン国立言語大学、ロシア-タジク-スラブ大学）の手紙交換による文化交流を行いました。



青森市国際交流ボランティア協会のお出迎え



青森市内2大学が手紙を作成



タジキスタンはもちろん、自分の地域を学ぶ機会にもなりました。



青森市で私が紹介したい場所は、合渡公園です。手紙とあわせて制作したビデオレター



青森中央学院大学の皆さん



青森公立大学の皆さん

2019.11.21

タジキスタン文化交流「大学生による手紙交換」の様子



山梨市 × キルギス
YAMANASHI CITY KYRGYZ



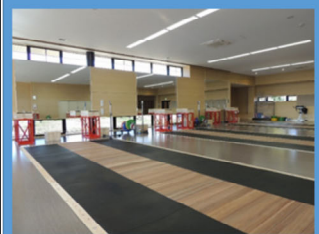
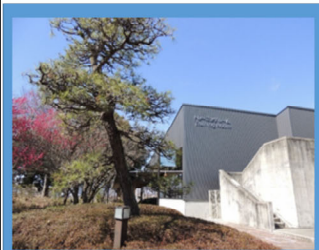
山梨市役所
地域資源開発課
東京オリンピック・パラリンピック対策担当
日野原 課長

アクセス

最高の状態で東京の選手村に移動することができます。

東京に隣接 空港から
便利なアクセス

Yamanashi city



Tokyo international Forum



2020年東京 パラリンピック パワーリフティング競技会場
まで、115キロメートル 車で、110分

14

始めに、山梨市の紹介をさせていただきます。

山梨県山梨市は、東京オリンピック・パラリンピック会場となる東京国際フォーラムから115km 車で約110分のところにあります。

本市の国際基準を整えた、トレーニングルームについては、300㎡ あり、ドイツ ウエイトリフティングチーム、キルギス パラ パワーリフティングチームが事前キャンプに来ることになっています。

美しい自然や観光スポット

Mt. Fuji from the city



View from fruit park



フルーツ王国

ももとぶどうは日本で有数の生産量です



山梨市では、果樹栽培を中心とした農業が盛んです。桃、ブドウ、サクランボ、イチゴなど、多くの果物がすべての季節を通して収穫されます。

15

山梨市では、果樹栽培を中心とした農業が盛んです。
桃、ブドウ、サクランボ、イチゴなど、多くの果物がすべての季節を通して収穫されます。
特に、ぶどう、桃は、全国でも有数の生産量を誇る地です。

南には、日本一の富士山を眺めることができ、自然に囲まれた穏やかな地域です。

山梨県 山梨市 ホストタウン

共生社会
ホストタウン申請中

オリンピック
ドイツ連邦共和国
ウエイトリフティングチーム



パラリンピック
キルギス共和国
パワーリフティングチーム



山梨県山梨市では、2つの国のホストタウンを目指しています。

1つ目の国は、オリンピックのウエイトリフティング競技で、ドイツ連邦共和国の事前合宿を受け入れることになっています。

2つ目の国は、本日ゲストで参加頂く予定でしたが、残念ながら急遽欠席になってしまいました。キルギス共和国 パラ・パワーリフティング競技選手で、参加予定でした 2人の選手とコーチをご紹介します。

パラ パワーリフティング

ベンチプレス



パラ パワーリフティング 競技の説明をいたします。

この競技は、ベンチプレス競技の1種目のみです。

男女とも10階級あり、それぞれ3回挑戦することが出来、一番挙げた重量で勝敗が決まる競技です。

選手は、車椅子で入場し、ベンチ台に移動します。

そこで、体を固定し、競技が始まります。

2分の制限時間の中で、バーを持ち、主審の合図で、胸までバーを下げ、一度静止した後、左右バランスよくバーを、押し上げなければなりません。

今日は隣で体験が出来ますので、是非後ほどご体験ください。

49kg級 アジズベック選手(14歳)



+107kg級 アディレッド選手(27歳)



49kg級 ドヴラノフ選手 14歳 です。

7歳の時、バスを待っていた彼のもとに小型バスが突撃し、足を切断することになりましたが、彼は強い意志で、回復パワーリフティングを始め、1年のトレーニングを経て、国際チームメンバーとして選ばれるまで、成長しました。

今後さらに、期待がされます。

頑張ってください。

次に、+107kg級 カムチェベコフ選手です。

先天的な股関節の脱臼の選手です

全国選手権や国際選手権に参加し、READY Steady TOKYO - パラパワーリフティングで銅メダルを獲得したり、2018年アジアパラ競技大会で5位になりました。

今後期待される選手です。

頑張ってください。

ホストタウンの波及効果

お互いを知る。 お手紙交換交流



ホストタウンとしての波及効果

1月12日から18日まで、私たちは、キルギス共和国へ行ってきました。
その際、山梨市立笛川小学校5年生に、協力してもらい、キルギスの子供達へ手紙を書いてもらい、私たちは、キルギスのビリムカナ カント日本学校へ、手紙を届けました。

子どもたちは、キルギス語で書かれた日本からの手紙に大喜びでした。

ビリムカナ カント 日本学校では、日本語の授業も行われているとのこと。
日本への関心が高く、日本に行ってみたいと言っていました。
また、校長先生の旦那さんは、日本人だそうです。

更に、笛川小学校からのビデオメッセージにも大喜びでした。

ホストタウンの波及効果

お互いを知る。 お手紙交換交流



キルギスから日本の笛川小学校へ届いた手紙



キルギスから日本への手紙

キリギス ビリムカナ カント 日本学校の子供達から日本の笛川小学校の児童への返事も預かり、私たちが持ち帰ることになりました。
そして、その手紙を笛川小学校へ届けました。
笛川小学校の児童も返事が来た感動と、日本語で書かれた手紙に見入っていました。

キルギスで、おにぎりを握る「縁結び」事業

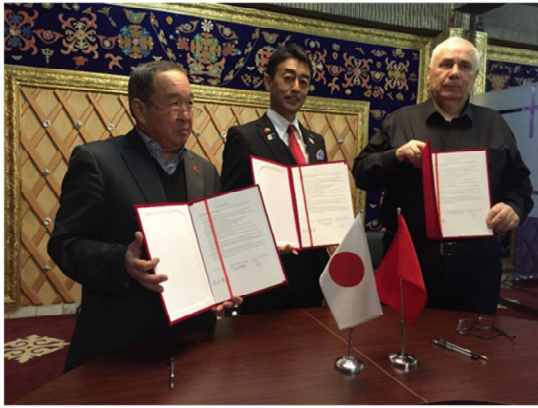


キルギスとの縁結びプロジェクトでは、ビリムカナ カント 日本学校で、おにぎりを握る交流会を実施しました。

日本からお米を持参し、日本では、お祝いの時に食べられているお赤飯で、おにぎりをつくりました。

みんな、上手に結ぶことが出来、おいしく頂きました。

キルギスパラリンピック協会・パラパワーリフティング連盟との覚書の締結



キルギス パラリンピック委員会及びパラパワーリフティング連盟との事前キャンプについての覚書を締結した。(202.1.15)

キルギス パラ・パワーリフティングの選手は、毎回 何人もの代表選手を出しています。

既に、お互いのことを知り合い。交流が始まっています。

キルギスの人たちは、日本のことをとてもよく知っています。

私たち日本人は、もっとキルギスのことを知らなければ、恥ずかしいと思えました。

お互いが、知り合い。

友好を深めていきたいと思っています。

2020年東京オリンピックを契機としたレガシー創造への寄与

- ・子どもたちの交流事業の促進
- ・キルギスの中学生の修学旅行交流
- ・文化交流の実施（太鼓演奏を通じた国際交流）
- ・スポーツを通じた交流 など

⑧ NAGOYA CITY × UZBEKISTAN 

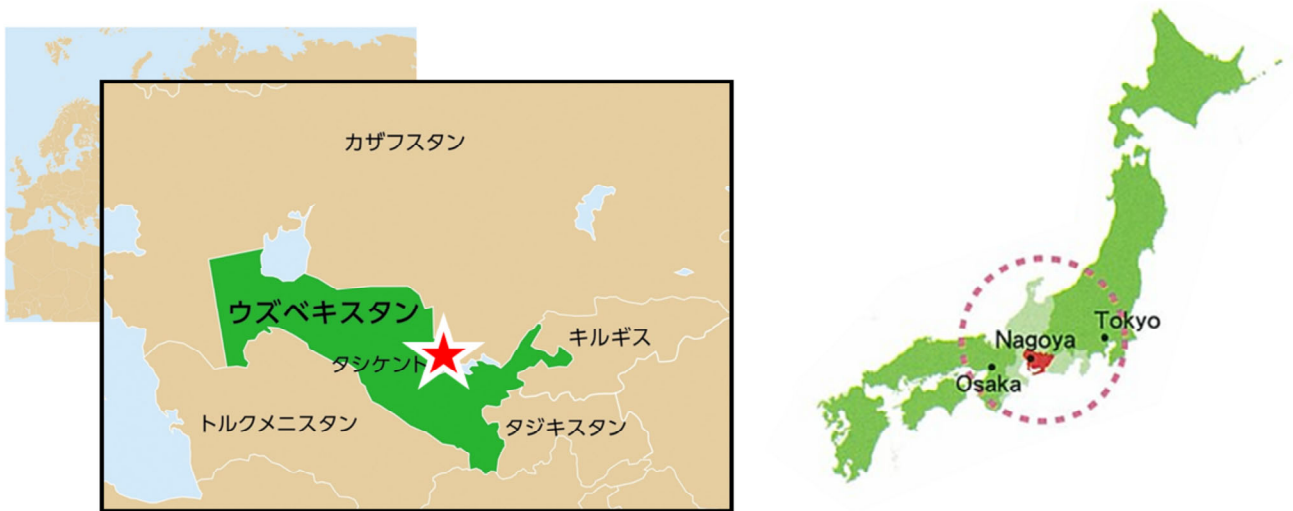
ホストタウンを契機とした 都市間交流へ

名古屋市観光文化交流局
国際交流課 栗原 英郎



本日、名古屋市が実施したウズベキスタンとのホストタウン事業の成果を発表します、
名古屋市観光文化交流局国際交流課長の栗原(くわばら)と申します。
よろしくお願いいたします。

名古屋市 & ウズベキスタン



はじめに、ウズベキスタンと名古屋を簡単にご紹介します。

会場におみえになっている方はご存知かと思いますが、ウズベキスタンは中央アジアの真ん中にある国で、シルクロードの中継点として長い歴史を持ち、英雄ティムールが生まれた地としても知られています。

対して、名古屋は日本の真ん中にあり、戦国武将の三英傑(織田信長、豊臣秀吉、徳川家康)にゆかりの深い場所でもあります。

名古屋市 & ウズベキスタン

＊同じところ

- ・名古屋の人口: 232万人
- ・タシケントの人口: 240万人

＊つながり

- ・名古屋大学の法整備支援
- ・ホストタウン文化交流



ウズベキスタン・ウィーク・イン・ジャパン
UZBEKISTAN WEEK IN JAPAN
 ウズベキスタン・コンサートプログラム、ウズベキスタン芸術展
 ウズベキスタン観光プレゼンテーションならびにウズベキスタン貿易展
 UZBEKISTAN CONCERT PROGRAMS, APPLIED ART EXHIBITIONS, TOURISM POTENTIAL
 PRESENTATIONS AND PHOTO EXHIBITIONS
2018年5月15-21日 東京、名古屋、大阪
MAY 15-21, 2018 TOKYO, NAGOYA, OSAKA
 FREE ENTRANCE (入場無料)

1. 東京会場 TOKYO
 2018年5月15日(水) 18:00開演
 会場: 有明コロシアム
 コンサートチケット: 12,000円、18,000円、25,000円
 2. 名古屋会場 NAGOYA
 2018年5月18日(土) 18:00開演
 会場: ナゴヤシティホール
 コンサートチケット: 12,000円、18,000円、25,000円
 3. 大阪会場 OSAKA
 2018年5月21日(月) 18:00開演
 会場: 大阪シティホール
 コンサートチケット: 12,000円、18,000円、25,000円

PERFORMERS:
 MUNOJAT YULCHEVA - ウズベキスタン共和国・国民アーティスト
 ZULKHAYO BOYHOMOVA - ウズベキスタン共和国・国民アーティスト
 ウズベキスタン伝統舞踊「ガガリナ」ダンス・アンサンブルより
 UMID ISRAILOV - 「ナガイ」舞踊団長・ウズベキスタン・ナガイ舞踊家
 FARANGIZ SHAMSIEVA - ウズベキスタン・ナガイ舞踊家
 「ナガイ」舞踊団長・ナガイ舞踊家
 TURKOV FOLK ENSEMBLE
 DILNOZA ORTIOVA - ウズベキスタン共和国・国民アーティスト
 BOHILA KOLUNOVA - ウズベキスタン共和国・国民アーティスト
 DILDORA RUSTAMOVA - ウズベキスタン共和国・国民アーティスト

UNDER THE SUPPORT OF HOST TOWN
 INITIATIVE OF NAGOYA CITY

他にも、名古屋市が交流を行っている首都タシケントと名古屋は、人口規模が同じであるという共通点もあります。

また、名古屋大学がウズベキスタンの法整備支援に長く貢献してきたご縁があり、ホストタウン登録に繋がりました。

ホストタウンとして、「UZBEKISTAN WEEK IN JAPAN」などの文化交流を行ってきました。

2019年の取り組み ①

@ なごや

「Nagoya meets Tashkent」開催

- * プロフ試食
- * 文化講演
- * ディスカッション
- * 映画パネル展



それでは、ウズベキスタンのホストタウンとして登録された名古屋市が今年度を実施した国内事業と、海外事業をそれぞれ紹介いたします。

まず、国内で実施した事業ですが、6月にウズベキスタンとタシケント市を紹介するイベント「Nagoya meets Tashkent」を開催しました。

本イベントでは、プロフの試食、文化講演、ディスカッションそして映画のパネル展を行いました。

Nagoya meets Tashkent



受け付けの様子です。

Nagoya meets Tashkent



左は、ウズベキスタン大使館からお借りして会場に展示したウズベキスタンの民芸品です。

右は、会場の様子です。ここで、名古屋大学の先生による文化講演会や、ラジオDJを招いてのディスカッションを行いました

Nagoya meets Tashkent



左は、ウズベキスタンの国民食である「プロフ」など、ウズベキスタン料理を市民の方に食べていただいている様子です。ウズベキスタンの方向けには、ハラルのなごやめしを民間事業者（山本屋）からご提供いただきました。

右は、当時公開予定だったウズベキスタンを舞台にした映画「旅のおわり 世界のはじまり」のパネルです。Nagoya meets Tashkent で展示した後、JICA中部でも展示を行いました。（この写真はJICAでの展示の様子です。）

Nagoya meets Tashkent



映画とのタイアップ

👉 メディア連携による話題創出

×

インスタ用撮影パネル

👉 市民によるSNS拡散



本事業で工夫した点は、映画とのタイアップを行うことで話題づくりを行い、当日は主演の前田敦子さんと黒沢監督からのビデオメッセージを流すとともに、インスタ用の大きな撮影パネルを用意することで、参加された市民の方々がSNSで拡散する仕組みを導入したことです。

また、本事業に併せて作成したポスターには、前田敦子さんのサインとコメントをいただき、名古屋市の全小中学校に掲示するなど、幅広い市民の方への周知を行いました。

2019年のとりくみ ②

@タシケント

「Tashkent meets Nagoya」開催

- ＊お手紙交換プロジェクト
- ＊むすびプロジェクト
- ＊ボッチャで相互交流



次に、ウズベキスタンで実施した事業「Tashkent meets Nagoya」をご紹介します。本事業は内閣府のオリパラ基本推進調査事業として実施したものです。

このイベントでは、タシケントと名古屋両市の小学生が自分たちの国や街を紹介する絵手紙を描いてもらい交換する「お手紙交換プロジェクト」と、お互いの食文化を活かしたおむすびのレシピを作成する「むすびプロジェクト」の他、パラスポーツ「ボッチャ」の体験を実施しました。



会場には、ウズベキスタのオリパラ選手もたくさん来てくれました。

Tashkent meets Nagoya



参加してくれたパラリンピック選手の方々です。

Tashkent meets Nagoya



こちらは体操の選手で、会場で体操を披露してくれました。

Tashkent meets Nagoya



会場では講演会の他、モダンな着物の試着を通してタシケントの方々に日本文化を紹介しました。

お手紙交換プロジェクト



こちらは、名古屋の子供たちが描いた絵手紙の様子です。会場に掲示し、タシケントの方々に見ていただきました。

むすびプロジェクト



ウズベキスタン渡航前に、名古屋ウズベキスタン友好協会にご協力いただいてプロフを使ったおむすびレシピを考えている様子です。

むすびプロジェクト



考案したプロフを使ったおにぎり、ウズベキスタン名物「ゲンマ」の具材を日本風にアレンジしたゲンマ軍艦おにぎり、ハラール対応のなごやめし・てんむすを、みんなで食べました。
併せて、和菓子も提供しました。

ボッチャで交流！

名古屋
市長も
参加!!

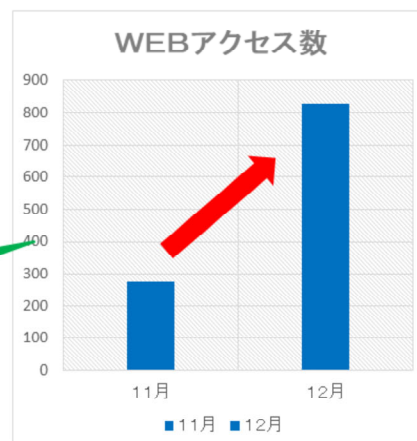


最後に、会場でのボッチャ体験の様子です。70歳を超える名古屋市長も参加し、国籍や障害の有無、年齢に関係なく、スポーツによる交流を行うことができました。

成果① 名古屋市民への影響

＊名古屋市民にとって、ウズベキスタンが身近に！

- ☞名古屋でのイベント 300名(定員の2倍)の市民が参加
- ☞SNS・ブログで拡散 ※YOUTUBE動画再生数:1900回
- ☞ラジオ「Salom! TASHKENT」放送
- ☞テレビ・新聞報道
- ☞名古屋市ウェブ・タシケントページアクセス数
事業実施前276件⇒事業実施後828件



設定した目標(アクセス数2倍)を超え、3倍を達成！！

それではここから、国内と国外で実施したホストタウン事業でどのような成果があったかを見ていきたいと思います。

まずは、名古屋市民への影響についてです。

国内で実施したイベントはとても好評で、想定していた定員の2倍の市民が参加され、こちらの狙いどおり、参加者がYOUTUBEやTWITTER、個人ブログなどで情報を発信してくれました。

また、タシケントで実施したイベントは日本のテレビ局の取材を受け、日本で紹介された他、同行いただいたラジオDJのMEGURUさんによって、ラジオ番組「Salom! Tashkent」が放送されました。

これらの結果として、名古屋市公式ウェブサイトにあるタシケント紹介ページのアクセス数が、事業実施前の11月には276件であったところ、実施後の12月には828件となりました。比較するとちょうど3倍です。

事業実施前に立てていた、アクセス数を2倍にするという目標を達成することができました。

Tashkent meets Nagoya テレビ報道



テレビ報道の様子です。

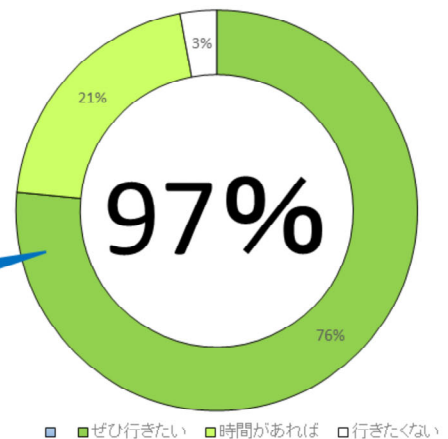
成果② タシケント住民への影響

*タシケント市民への影響

- ☞タシケントのイベントには、180名の市民が参加
- ☞小学校に名古屋コーナーを設置(手紙プロジェクト)
- ☞参加者の97%が名古屋に行ってみたいと回答

設定した目標(肯定的意見8割)を超え、目標達成！！

名古屋を訪れたいか？



次に、タシケント市民への影響についてお話します。

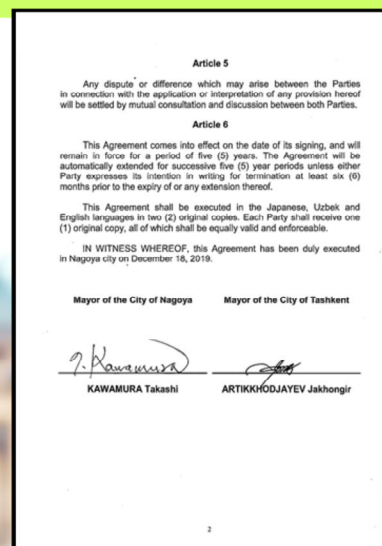
タシケントのイベントには約180名の市民が参加され、名古屋の文化に触れていただきました。またイベント開催後に、お手紙プロジェクトにご協力いただいたタシケントの小学校が、名古屋の子供たちから受け取った絵手紙を展示する「名古屋コーナー」を作ってくれました。

イベント参加者のアンケートでは、回答者の97%が、名古屋に「ぜひ行ってみたい」もしくは「時間があれば行ってみたい」と回答してくれました。

事前に設定していた、「肯定的意見が8割」という目標を大きく超える成果でした。

成果③ 2020年東京大会レガシーへ・・・

2019年12月18日、
タシケント市と**パートナー都市協定**
を締結しました！



これらの交流実績を踏まえ、2019年12月18日に、名古屋市はタシケント市とパートナー都市協定を締結することができました。

本協定の締結は名古屋で行ったのですが、その際にはウズベキスタン大統領にもお立会いただき、各種メディアに取り上げられました。

成果③ 2020年東京大会レガシーへ・・・



これらの交流実績を踏まえ、2019年12月18日に、名古屋市はタシケント市とパートナー都市協定を締結することができました。

本協定の締結は名古屋で行ったのですが、その際にはウズベキスタン大統領にもご同席いただき、各種メディアに取り上げられました。

今後の展望

① 行政間での観光・文化・人材交流

☞ 相互PR、職員相互派遣

② 民間とのコラボ

☞ 提携記念の新商品開発

③ 市民間の交流促進

☞ 直行便の就航

締結記念
シルクロードまんじゅう(仮)



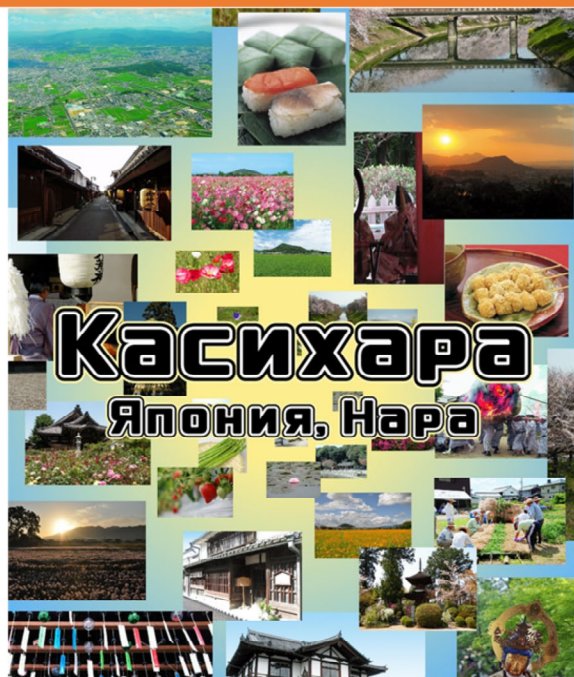
さて、ウズベキスタンの首都タシケントと観光・文化交流分野でパートナー都市協定を結んだ名古屋ですが、協定を締結したこれからが本番です。

協定に基づき、相互の観光PR、自治体職員の相互派遣研修、提携記念のお土産の開発と販売、直行便の就航を目指していきます。

2020年東京大会のレガシーを残すべく、行政だけではなく民間事業者、そして両市の市民を巻き込んだ施策を展開していきます。



名古屋市の発表は以上になります。
ご清聴ありがとうございました。



【橿原市(かしはらし)の概要】

橿原市は、人口は約12万人で、奈良県第2の都市です。
「はじまりの地」としてPRしており、
初代の神武天皇を奉る橿原神宮、
日本最初の首都である藤原宮跡、
万葉集で多くの歌人に愛されてきた大和三山など、
歴史と自然、文化遺産に満ちあふれた風光明媚なまちです。

また、古くから交通の要所として知られており、
現在でも大阪まで30分、京都まで50分、名古屋まで2時間という
立地の良さから、大阪のベッドタウンとして発展してきました。



カザフスタン選手団公式コスチューム デザイン協働プロジェクトについて — 奈良県橿原市 —



【登録経緯】

カザフスタンと橿原市は、ユーラシアの交易路・シルクロードでつながっており、カザフstanは中継地、橿原市は東の終着点として、歴史的に深い縁がある。また、2016年から毎年カザフスタンの学生十数名を受け入れ、日本文化体験教育旅行プログラムを実施している。

- スポーツ…2018年9月に女子バレーボールチームを事前合宿として、また2019年1月には男子シットングバレーボールを市民との交流目的で受入した。
- 文化…2018年6月、首都ヌルスルタンに橿原市の造園家を派遣し、日本庭園の完成支援と維持管理技術の伝承を行ってきた。
- 教育…2019年8月からカザフスタン人の国際交流員を任用。幼稚園・保育所、小・中学校を出前講座として訪問し、草の根交流に尽力している。



男子シットングバレーボール
受入交流事業

ナザルバエフ大学文化センター
での日本庭園完成支援事業



世界選手権大会に向けた女子バ
レーボールチーム事前合宿

【ホストタウンの登録経緯】

カザフスタンと橿原市は、ユーラシアの交易路・シルクロードでつながっており、カザフスタンの中継地、橿原市は東の終着点として、歴史的に深い縁があります。

また、2016年から毎年カザフスタンの学生十数名を受け入れ、日本文化体験教育旅行プログラムを実施してきました。これらの交流をもって、2017年12月、橿原市はカザフスタンのホストタウンとして登録されました。

【これまでの主な事業実績】

スポーツの分野では、2018年9月に女子バレーボールチームを世界選手権に向けた事前合宿として、また2019年1月には男子シットングバレーボールを市民との交流目的で受入しました。

文化面では、2018年6月、首都ヌルスルタンに橿原市の造園家を派遣し、日本庭園の完成支援と維持管理技術の伝承を行ってきました。

教育としては、2019年8月からカザフスタン人の国際交流員を任用し、幼稚園・保育所、小・中学校を出前講座として訪問する、草の根交流に尽力してきました。



カザフスタン選手団公式コスチューム デザイン協働プロジェクトについて — 奈良県橿原市 —



- 2019年11月25日、駐カザフスタン特命全権大使公邸において、オリンピック委員会（NOC）とコスチュームデザインに係る協働事業を推進するにあたり、覚書を締結。
- この覚書に基づき、NOCカザフスタン及び橿原市は、2020年東京大会においてカザフスタン選手団が着用するコスチュームに、橿原市のデザイナーが考案した、カザフと奈良・橿原がシルクロードによってつながっていることを想起させる「伝統文様ロゴデザイン」を落とし込むことに合意。

橿原市デザイナー
中曽 恵美氏



「Marino Madi」代表
Sypatayev Madi氏



「Zibroo」代表
Yelena Svechnikova氏

【今回のプロジェクトの概要】

現在、東京大会におけるカザフスタン選手団の公式コスチュームに、橿原市とカザフスタンのデザイナーが協働して作成した伝統文様ロゴデザインを落とし込むプロジェクトを進めているところです。

中央のSypatayev Madiさんが、セレモニー用コスチュームのデザインを担当し、右のYelena Svechnikovaさんが、スポーツウェアのデザインを担当します。

そして、左が橿原市代表のデザイナー、中曽恵美さんです。

中曽さんは、2019年10月に当市で公募した「ホストタウンデザイナー」に選ばれ、同年11月にカザフスタンへ渡り、カザフスタン国立芸術大学で、カザフ古来の伝統文様や、今昔が融合した服飾デザインを学んでこられました。



カザフスタン選手団公式コスチューム デザイン協働プロジェクトについて — 奈良県橿原市 —



①ホストタウンへの波及効果

プロジェクトの認知度の拡散、「カザフスタンのホストタウン・橿原市」の周知啓発。

②事業実施により達成できた目標

NOCカザフスタンに、当市がカザフスタンのホストタウンであり、これまで多数の交流事業に取り組んできたことを強くアピールすることに成功。



【今回のプロジェクトの成果報告】

①ホストタウンへの波及効果について

当市デザイナーの選定にあたっては、橿原市民のみならず、奈良県民全体に公募することで、プロジェクトの認知度向上のみならず、「カザフスタンのホストタウン・橿原市」を、市内外に広く周知できました。

②事業実施により達成できた目標について

NOCカザフスタンに、当市がカザフスタンのホストタウンであり、これまで多数の交流事業に取り組んできたことを強くアピールすることに成功しました。



カザフスタン選手団公式コスチューム デザイン協働プロジェクトについて — 奈良県橿原市 —



- ③相手国への波及効果
署名式の様子が、カザフ国営テレビで放映
- ④2020年東京大会を契機としたレガシー創造への寄与
国内外へのシティセールスとなり、交流人口の拡大に貢献

橿原市×カザフスタン 伝統文様ロゴデザイン（案）



【ロゴ案1】
上部の3つの輪は、橿原市の名勝である大和三山がモチーフ。奈良のシンボル・鹿をイメージした。



【ロゴ案2】
神武天皇の案内役をつとめた金鷄が全体のモチーフ。市花のクチナシが中央に咲き誇る。



【ロゴ案3】
橿原とカザフの頭文字であるKがモチーフ。チューリップはカザフを、クチナシは橿原市を表し、交差させることで交流の深さを強調。

③相手国への波及効果について

このプロジェクトの実施に際して、2019年11月に相手国にて覚書を締結し、その署名式の様子はカザフスタンの国営テレビで放映されました。今後、カザフスタンにおいて、橿原市の認知度向上が期待されます。

④2020年東京大会を契機としたレガシー創造への寄与について

入場行進時のコスチュームに、橿原市民がカザフスタン人とコラボレーションした、という事実が国内外へのシティセールスとなり、交流人口の拡大というレガシーへの寄与が見込まれます。

このスライドの3点が、中曽さんが考案した伝統文様ロゴデザイン案です。これらは今後、カザフスタンのデザイナー2名と一緒にアレンジを施し、選手団の公式コスチュームに採用される予定です。

橿原市からの成果報告は、以上になります。